第５３回福島県中学校長会
研究協議会相双大会

豊かな人生をを切り拓き、持続可能な社会の造り手を育てる中学校教育

第５小主題　一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実

令和７年１０月１０日（金）

伊達地区中学校長会研究内容

第５小主題（研究１年次）

一人一人の社会的･職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実（進路指導）

Ⅰ　研究の趣旨

産業・就業構造の変化や働く人に必要とされるスキルの変容

↓

生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けていく

キャリア教育充実のために・・・

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- 課題対応能力
- キャリアプランニング能力

↓

「基礎的・汎用的能力」の育成

キャリア教育充実のために・・・

生徒一人ひとりの課題にそった
具体的な目標を設定

↓

学校の実態に応じた教育活動において目標の達成を図る

キャリア教育充実のために・・・

小・中・高等学校のつながりを明確にしたキャリア教育の充実

↓

児童生徒の活動を記録・累積する教材としてのキャリア・パスポートの導入・活用

キャリア教育充実のために・・・

生徒自らが自分の生き方を考え、
主体的に進路を選択

教育活動全体を通しての
組織的かつ計画的な進路指導

Ⅱ　研究の視点と方向性

【視点１】

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する系統的なキャリア教育の充実

【視点１】のキーワード

- キャリア・パスポート
- 社会参画意識
- 勤労観・職業観の育成

【視点２】

特別活動を要としつつ教育活動全体を通して取り組まれる組織的・計画的な進路指導の充実

【視点２】のキーワード

- 特別活動・学級活動
- 進路指導計画の充実

【視点３】

学校と地域社会や産業界等が連携・協働した体験的な学習の充実

【視点３】のキーワード

- 具体的実践の連携
- 将来の生き方・進路

令和７年度研究の方向性（伊達支会）

自校におけるキャリア教育の課題把握と必要な資質・能力を育成するための実践の充実を図るには、校長はどのように関わっていくべきか。

Ⅲ　研究の進め方

＜2025年度－2027年度＞
「研究の手引き」より抜粋

- 自校におけるキャリア教育の課題把握と改善のための環境整備
- キャリア教育全体計画に基づく、PDCAサイクルの実践
- 校長としての関わりを中心に成果と課題をまとめ、研究の共有化

Ⅳ　研究計画

- 実態・課題の整理、研究内容・計画の確認
- 課題解決に向けた研究実践【１学期中】
- 実践の中間報告【地区校長会にて】
- 実践発表
- 研究集録の整理・まとめ

Ⅴ　研究の概要

実践事例１：D中学校 【校長の関わり方の視点】

視点１：「系統的なキャリア教育の推進」

１　学校の現状の課題

キャリア教育の重点目標・指導内容を踏まえて指導を行っているが、育成すべき能力を明確に捉え、系統的な指導にまでは至っていない。

２　実践の概要

学校の課題を踏まえ、校長として以下の内容を教員に提案して実践した。

育成すべき能力を踏まえたキャリア教育の実践と評価・改善を図りましょう！

2　実践の概要

◇　教育活動全体を通したキャリア教育の重要性の説明（校長）

◇　各教育活動と基礎的・汎用的能力の関連表の作成（教頭・キャリア教育担当）

◇　見通しを立て、振り返る活動の継続的な実施（各担任等）

キャリア教育活動後の振り返りの様子

育成したい
基礎的・汎用的能力と
各教育活動との関連表

育成したい基礎的・汎用的能力と各教育活動との関連表

基礎的・汎用的能力	学年	1学年					2学年					3学年			
	学年テーマ	自分を知る					自分を広げる					自分で選択する			
	実施月	4	7	11	1	2	4	7	11	1	2	4	4	7	11	2
	各教育活動 / 各能力における要素 ◎=重点	キャリアパスポート	福祉体験活動	高齢者への手紙	テーマ別探究（キャリア）	キャリアパスポート	キャリアパスポート	職場体験活動	テーマ別探究（修学旅行）	立志式	キャリアパスポート	キャリアパスポート	修学旅行	高校説明会	テーマ別探究（進路選択）	キャリアパスポート
Ⓐ 人間関係形成・社会形成 多様な他者の考えや立場を尊重し、相手の意見を聴き、自分の考えを伝え、協力・協働して社会参画・形成する力	1 他者の個性を理解する力		◎					○								
	2 他者に働きかける力		○	○				○					○			
	3 コミュニケーション・スキル		○	○				◎					○			
	4 チームワーク		○					○					○			
	5 リーダーシップ		○					○					◎			
Ⓑ 自己理解・自己管理 自分ができること・したいこと・可能性を肯定的に理解し、行動し、自らの思考や感情を伸し進んで学ぼうとする力	1 自己の役割の理解	◎				◎	○				○	○				○
	2 前向きに考える力	○				○	○			○	○	○				○
	3 自己の動機付け	○				○	○				○	○				○
	4 忍耐力		○					○					○			
	5 ストレスマネジメント														○	
	6 主体的行動		○					○					○			
Ⓒ 課題対応 従来の方法や考え方にとらわれずに物事を前に進めていく力、情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力	1 情報の理解・選択・処理等				○				○				○		○	
	2 本質の理解				○				○				○		○	
	3 原因の追究				○				○				○		○	
	4 課題発見				○				○				○		○	
	5 計画立案				○				○				○		○	
	6 実行力				○			○					○			
	7 評価・改善					○					○					○
Ⓓ キャリア・プランニング 働くことの意義を理解し、自分の立場や役割との関連を踏まえて、多様な生き方に関する情報を取捨選択・活用しながら、主体的にキャリア形成をしていく力	1 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解		○				◎			◎				○	○	
	2 多様性の理解		○					○							○	
	3 将来設計				○			○		○				◎	◎	
	4 選択		○		○			○						○	○	
	5 行動と改善					○					○					○

3　校長の関わり

☆キャリア教育の意義や全体計画の説明
関連表の作成を指示

各学年で教育活動の系統性を踏まえた指導がより意識されるようになってきた

４　成果と課題　（○成果　▲課題）

○４つの基礎的・汎用的能力が「将来仕事に就く際に求められる実際の行動」という観点から整理されていることを確認したことで、「キャリア教育＝進路指導」のような狭い捉え方が改善されてきた。
▲「キャリアパスポート」等の活用により，見通しを立て、振り返る場を設定し、自分らしさの認識や社会との接続ができるようにしていく必要がある。

実践事例２：TG中学校 【校長の関わり方の視点】

視点２：「特別活動におけるキャリア教育
進路指導の充実」

１　学校の現状の課題

小中一貫校として、９年間を見越した系統的な特色ある教育活動の展開しているが、自分の将来に見通しをもち、目標に向かって継続的に努力する力に欠ける面が見られる。

2　実践の概要

学校の課題を踏まえ、校長として以下の内容を教員に提案して実践した。

地域の素材を生かしたふるさと学習や奉仕・ボランティア活動など地域への積極的な参画によるキャリア教育の推進を図りましょう！

2　実践の概要

◇　総合的な学習の時間（ふるさと学習）や学級活動を通したキャリア教育の計画の見直し

◇　計画に沿った教育活動による地域への参画や異学年交流によるキャリア教育の推進

◇　活動の振り返りによる自己理解や人間関係形成・社会形成能力の育成

地域へのプレゼント活動の様子

3　校長の関わり

☆スクール・コミュニティと連携を深め、
地域の行事に積極的に参加

地域学習に参画しやすい環境づくりに努めた。

４　成果と課題　（○成果　▲課題）

○活動の成果や自己の課題を分析し、改善につなげようとする自己管理・自己理解能力の高まりが見られた。

▲地域との連絡調整を図る校長を含めた教職員の負担をどのように軽減していくか。

実践事例３：Y中学校 【校長の関わり方の視点】

視点３：「学校と地域社会や産業界等が連携・協働した体験的な学習の充実」

１　学校の現状の課題

学校のある町は、現在は人口もかなり減り、生徒数も以前より３分の１にまで減少している。
また、地元に残って就職する生徒も減ってきている。

2　実践の概要

学校の課題を踏まえ、校長として以下の内容を教員に提案して実践した。

カリキュラムマネジメントの視点で、RCの方々と協力し、生徒にとってよりよいキャリア教育活動を考え、計画していきましょう！

2　実践の概要

◇１年生と３年生で「職業人に聞く、話す会」を実施
　２年生で「職場体験」を実施
◇様々な職業観や地域の歴史や文化などを理解
◇企業が欲している人材や組織の中での
　関わり方などの理解
◇普段からの礼法や身の回りの整理整頓など
　社会で生きていることの学び

「職業人に聞く会」の様子

3　校長の関わり

☆ＲＣや商工会議所の方々との連携のため、普段から地域の行事などに参加して、関係づくり

☆ロータリークラブの定例会などに講師として参加し、中学校との連携事業や職場体験についての説明

４　成果と課題　（○成果　▲課題）

○１年生から系統性を持たせ、発達段階を踏まえたキャリア教育活動を計画・実践した結果、キャリア教育の基礎的・汎用的能力が身に付いてきた。

▲校長の地域の行事への参加や講師として休日に活動することの負担が大きい。校長が地域に密着し、ある程度地域を知っている状況でないと活動が停滞する恐れがある。

実践事例４：K中学校　【校長の関わり方の視点】

視点３：「学校と地域社会や産業界等が連携・協働した体験的な学習の充実」

１　学校の現状の課題

職場体験活動については、すべて学校側で事業所との連絡調整や当日までの準備、生徒への事前指導などを行っているため、先生方の負担が非常に大きい。

2　実践の概要

学校の課題を踏まえ、校長として以下の内容を教員に提案して実践した。

教職員の働き方改革を踏まえて地域を巻き込んだ持続可能なキャリア教育の充実を目指しましょう！

2　実践の概要

◇　地域と協働できる学校行事
　　（キャリア教育等を含む）の洗い出し
◇　職場体験活動では、どの部分を地域に
　　お願いしたいかについての具体的な検討
◇　地域に要望する資料の作成

町にある病院での職場体験の様子

3　校長の関わり

☆町やＣＳ委員会に学校の職場体験活動についての現状を伝える

事業所との連絡調整等を
地域でお願いできないか要望

４　成果と課題　（○成果　▲課題）

○先生方の事務的な業務が減ったことにより、子どもたちとキャリア教育にじっくりと向き合う時間が増え、充実した活動ができた。

▲事務的な業務は減ったが、先生方への負担は変わらず、事業所との連絡調整の中でミスが生じた。

Ⅵ　終わりに

（１）「キャリアパスポート」等の有効な活用

（２）地域や関係機関との連絡調整を図るにあたり、校長や教職員の負担軽減

ご清聴、ありがとうございました。
伊達地区中学校長会